

# 隣保館だより

編集 下榎隣保館  
〒689-4526 日野町下榎 157 番地 1  
電話：72-1191 (FAX 兼)  
E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp

〈榎の実学習会・小中交流会〉

## 蒸しパンとチップス作り

12月22日、榎の実学習会の小学生と中学生の交流会を開きました。

今回の交流会では、子どもたちが菜園で育てたサツマイモとカボチャを使って、蒸しパンとチップスを作りました。

小学生がカボチャ、中学生がサツマイモの蒸しパンを担当。ふっくらと出来上がった蒸しパンにチョコペンで絵を描き、上手に完成させました。チップスは、中学生が揚げて、小学生が塩付け。ココアパウダーやシナモンパウダーも試しましたが、やはり塩味が一番！塩が付すぎて少し辛くなったりもしましたが、おいしく出来上がりました。

限られた時間の中で、がんばって作った蒸しパンとチップスを、みんなで味わいました。終わりのあいさつは中学生がしっかりとまとめ、楽しい交流会となりました。



▲力を合わせてお菓子作り。うまく出来るかな？▶チョコペンで自由にお絵描き。かわいい蒸しパンが完成！



## 人権あれこれ Part3 ~多様な性 LGBT 編~

「この社会は、女性と男性の2つの性別だけ。女性と男性が恋愛して、結婚して子どもができる。それが普通で幸せなこと」と思っていますか？

しかし、生まれたときに判断される「体の性」と、自分の自覚している「心の性」は、必ずしも一致するものではありません。

近年、ダイバーシティ(多様な性)推進の社会情勢から、LGBTなど、性的マイノリティの人々についての報道や、各種の取り組みにより、性的マイノリティについての認識は広がりがつつあります。しかし、依然として社会の理解や配慮は乏しく、当事者は偏見や差別により、日常生活においてさまざまな困難を抱えがちな現状があります。

当事者は無理解や差別を恐れて、誰にも伝えることができず、周りもその存在に「気づいていない」「いない」ものとされてきました。2つにしか分けることのできない社会のしくみに疑問を持って、誰もが安心して自分らしく暮らせるために何ができるか。皆さんも一緒に考えてみませんか？



※LGBTとは

L(レズビアン)：女性の同性愛者。

G(ゲイ)：男性の同性愛者。

B(バイセクシャル)：両性愛者。

T(トランスジェンダー)：性同一性障がい者。

体と心の性が一致しない状態の人。

## 3月の行事予定

### ◆生け花(草月流)

日時：3月27日(土) 午後1時30分~午後4時  
場所：下榎集会所 / 講師：生田清子さん

### ◆いきいき百歳体操

日時：3月4日、11日、18日、25日 毎週木曜日 午後1時30分  
場所：老人憩の家

### ◆よってみよい家

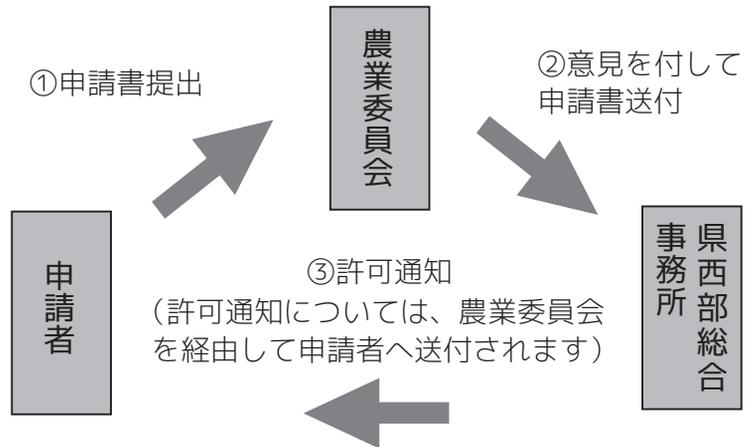
日時：3月2日、9日、16日、23日、30日 毎週火曜日 午後1時30分  
場所：老人憩の家

※どなたでも自由に参加できます。お気軽にお越しください。お問い合わせは下榎隣保館まで(電話 72-1191)

# 農業委員会だより No.85

## 農地転用について

農地を宅地・駐車場など農地以外の目的に利用する場合は、農地転用手続きが必要となります。手続きには1カ月程度かかりますので、お急ぎの人は早めに農業委員会事務局までご相談ください。



## 町長への要望結果

令和2年12月2日に実施しました町長要望について、令和2年12月11日付の文書で、次のとおり前向きな回答がありました。



### 【要望事項①】

意欲ある水稻農家に対して苗代を助成してほしい

### 〈町長回答〉

本町農業の柱である米作りを守り、維持し、育てていくことは重要であり、来年度当初予算編成の中で検討してみたい。

### 【要望事項②】

農業委員会と町が協力して、水門および農業用水路の現状分析を行ってほしい

### 〈町長回答〉

集中豪雨などでの農地被害防止などの観点から、農業委員会と連携して、まずは現状把握、現状分析を行いたい。

## 農地ナビを活用しよう！

全国農地ナビの  
ホームページはこちら

▶▶▶ <https://www.alis-ac.jp>

全国の農地の情報をインターネット上で公開しています。パソコン、スマートフォンのどちらでも閲覧できます。詳しくは、「農地ナビ」で検索しましょう。

○次回は、農地利用最適化推進員の山吹里美さんです。

農地利用最適化推進委員になって1年半が過ぎました。任命された当初は、農業委員会総会で審議される内容が難しく戸惑うことばかりで、勉強の毎日でした。

農地パトロールでは、町内の農地を巡回し、日野町の農業が改めて待ったなしの状況となっていると実感するとともに、日々の活動を通して、私自身、農地を見る目・意識面が大きく変わってきました。

今後は、有効活用できる農地を適正に管理し、後世に伝えていくことが大切になってきます。今ある資源を生かしつつ、「町・水・土地・みどり」を守り、将来に向けた日野町型農業の仕組みづくりを考えるため、微力ながら力を尽くしていきたいと考えています。

### 農業委員会活動を通して



農地利用最適化推進委員  
住田克哉（福長）

○リレーコラム